

廬州墨緣記

《花摘幹夫・河内君平・葛新民——日中書画芸術展覧》開催報告

河内利治（君平）

- 一 《日中書画芸術展覧》開催の経緯
- 二 《日中書画芸術展覧》作品目録
- 三 《日中書画芸術展覧》開幕式
- 四 《日中書画芸術展覧》開催祝賀書法作品と書簡
- 五 《日中書画芸術展覧》に関する新聞報道
- 六 《日中書画芸術展覧》開催の成果と友好について

一 《日中書画芸術展覧》開催の経緯

一九九一年六月、中国美術家協会安徽分会・中国書法家協会安徽分会より邀請函（招請状）を頂戴し、中華人民共和國文化部と安徽省人民政府の同意を経て、花摘幹夫・河内君平・葛新民の三氏が安徽省合肥市において、特に書画展を挙行し、ならびに同市を訪問せよとの邀請を拝受した。そして、中国の両協会と日本の前橋ユネスコ協会が共同主催する《花摘幹夫・河内君平・葛新民——日中書画芸術展覧》（以下《日中書画芸術展覧》と略）を九月七日から十三日まで、

合肥市の安徽省博物館において展覽することが決定された。ついで、六月二十五日付の安徽省人民政府外事辦公室発行の邀請函（NO.0392）を受理し、正式に展覽会開催およびそのための訪問の運びとなった次第である。

これを受けて、前橋ユネスコ協会会長中村宏氏を团长、文教大学教授水沢利忠先生を顧問とする《日中書画芸術展覽》訪中団一行十名が、九月六日から九日まで安徽省合肥市を訪れ、同展覽会の開幕式に出席し、熱烈な歓迎を受け心暖まる友好の情を結び合い、順風満帆の成果を上げて帰国した。よって、ここにその《日中書画芸術展覽》開催に関する一部始終を報告し、両国人民の友好の証を銘記しておきたい。

《日中書画芸術展覽》開催日時・会場・目的・出品作品・主催および後援団体は左記の通りである。

日時：一九九一年九月七日（土）～十三日（金）

会場：中華人民共和国安徽省合肥市 安徽省博物館 西楼二階

目的：現代日本と中国の書画家の芸術作品を通して、日本と中国両国の相互間の理解を計り、文化交流に寄与するため。

作品：油絵三十点（花摘幹夫）、書法四十点（河内君平）、中国画三十点（葛新民）

主催：日本—前橋ユネスコ協会

中国—中国美術家協会安徽分会・中国書法家協会安徽分会

後援：日本—日本中国文化交流協会・前橋国際交流協会・文教大学・仏教大学・調布学園女子短期大学

中国—安徽省人民对外友好協会・安徽省文学芸術界聯合界・安徽省政協書画社

二 《日中書画芸術展覽》作品目録

河内個人の作品の基調を成すのは、全41点中33点を占める篆書であり、そのうち18点（全体の4割強）は日本の書道展覽会サイズに言うところの二尺×八尺の縦長の形式である。残る8点は楷書3点・隸書2点・行書1点・草書1点・

篆刻1点である。今回の展出作品は、一九八一年に初めて展覧会（第17回雪心会展）に出品してから九一年までの十年間に書き溜めた作品からセレクトしたものであり、河内個人にしてみれば十周年を記念して、あらためてこの十年を振り返りながら、今後の書法創作活動を如何に進めていくべきかを模索する為のものであった。河内君平として『日中書画芸術展覧』に出品した書法作品の目録は左記の通りである。

	(作品名)	(書体)	(横×縦cm)	(制作年月)	(既発表展覧会・受賞名・展覧会場等)
1	李白・長干行	楷書	68×135	一九八一・一二	浙江美術学院習作
2	戦国策一節	篆書	48×228	一九八二・七	第18回雪心会展（上野の森美術館）
3	韓愈・石鼓歌	篆書	78×228	一九八二・一二	第10回雪心会展（奈良県文化会館）
4	王維・渭城曲	楷書	48×176	一九八三・七	浙江美術学院外国人留学生進修作品匯報展
5	白居易・憶江南	篆書	33×132	一九八三・七	浙江美術学院外国人留学生進修作品匯報展
6	魯迅先生詩	草書	60×220	一九八三・七	浙江美術学院外国人留学生進修作品匯報展
7	陶潜・桃花源記	篆書	48×228	一九八三・七	第19回雪心会展「雪心会賞」（上野の森美術館）
8	蠹魚齋印存	篆刻	一函三帙	一九八四・二	筑波大学卒業制作展（筑波大学芸術専門学群棟書室）
9	論語・微子篇	篆書	48×228	一九八四・八	第1回読売書法展（東京都美術館）
10	陶潜・五柳先生伝	篆書	170×68	一九八四・一一	第1回読売書法新鋭展（東京都美術館）
11	詩経・柏舟	篆書	50×166	一九八四・一二	第12回雪心会展（奈良県文化会館）
12	陶潜・歸去來辭	篆書	冊頁九葉	一九八五・四	習作
13	説苑・復恩	篆書	48×228	一九八五・八	第21回雪心会展「佳作賞」（上野の森美術館）
14	説苑・復恩	篆書	48×228	一九八五・八	第2回読売書法展（東京都美術館）
15	十八史略・劉備玄德	篆書	48×226	一九八五・一一	習作
16	陶潜・歸園田居其一	篆書	48×228	一九八五・一二	第2回読売書法新鋭展「佳作賞」（東京都美術館）

17	黄道周詩翰冊	楷書	冊頁六葉	一九八六・二	筑波大学修了制作展（筑波大学芸術専門学群棟書室）
18	楚辭・漁父	篆書	48×228	一九八六・二	筑波大学修了制作展（筑波大学芸術専門学群棟書室）
19	楚辭・漁父	篆書	48×228	一九八六・二	習作
20	李白・山中与幽人対酌	篆書	48×228	一九八六・四	第40回日本書芸院展（大阪市立美術館）
21	积月性詩	篆書	48×228	一九八六・六	習作
22	黄道周詩	篆書	72×180	一九八六・九	習作
23	菅茶山詩	篆書	48×228	一九八七・八	第4回読売書法展（東京都美術館）
24	漢書列伝	篆書	48×228	一九八七・一二	習作
25	頼惟柔詩	篆書	48×228	一九八八・八	第5回読売書法展（東京都美術館）
26	人書俱老	篆書	84×24	一九八八・九	習作
27	玩物喪志	篆書	34×135	一九八八・九	巢鴨学園文化祭賛助出品
28	茅盾・沁園春	篆書	48×228	一九八八・一一	習作
29	茅盾・沁園春	篆書	69×170	一九八八・一二	日本雪心会書法展（中国浙江省博物館文瀾閣）
30	探賾索隱	隸書	34×22	一九八九・一	習作
31	頼山陽詩	篆書	48×228	一九八九・八	第6回読売書法展（東京都美術館）
32	章太炎先生論書	篆書	48×228	一九八九・一二	習作
33	鶏口牛後	篆書	34×25	一九九〇・四	習作
34	一怒定天下千秋争是非	篆書	41×47	一九九〇・五	習作
35	史記・刺客列伝	篆書	53×225	一九九〇・八	第7回読売書法展（東京都美術館）
36	步步登高	篆書	42×55	一九九〇・九	習作
37	抱膝長吟	隸書	69×21	一九九〇・九	習作

38	尚友	行書	69×33	一九九〇・九	習作
39	射吾	篆書	62×30	一九九〇・九	習作
40	詩經・汝墳	篆書	170×69	一九九〇・一二	習作
41	莊子・達生篇	篆書	170×69	一九九一・四	習作

三 《日中書画芸術展覧》開幕式

九月七日（土）、晴れわたった青空のもと、九時から十一時半まで、合肥市安慶路に在る安徽省博物館本館において、賑々しくかつ和やかに《日中書画芸術展覧》開幕式が挙行された。式次第およびその具体的内容は次の通りである。なお中国側の発表によれば、開幕式出席者は六百人にも及んだそうである。

(一) 展覧会開会宣言―劉天明（中国書法家協会安徽分会副主席・秘書長）

(二) 訪中代表団紹介―河内君平

(三) 中国側来賓紹介―劉天明

鄭 銳（安徽省人民代表大会常務委員会副主任）

馬楽庭（安徽省人民政治協商会議副主席）

陳基余（安徽省人民政府秘書長）

潘邦富（安徽省人民政府外事辦公室副主任）

魯彦周（安徽省文学芸術界聯合会副主席・中国作家協会理事）

朱世力（安徽省博物館館長）ほか

(四) 祝電披露（かぎ括弧内は電文）

1 日本国立筑波大学名誉教授今井凌雪（日展参事・日本書芸院副理事長・雪心会会長・浙江美术学院客員教授）

「熱烈祝賀《日中書畫藝術展覽》在中國安徽省開幕。河內先生曾結業於中國浙江美術學院。對中國古代文化有研究，成果頗豐。近幾年來，為日中文化交流作了很大貢獻。特電賀，並祝展覽圓滿成功。」

2 中國美術家協會

「美協安徽分會·欣悉貴會和中國書協安徽分會、前橋聯合國教科文協會聯合主辦《日中書畫藝術展覽》、謹表示熱烈的祝賀！中日兩國一衣帶水的隣邦、兩國人民有着悠久的文化交流和友好往來的歷史。《花摘幹夫·河內君平·葛新民——日中書畫藝術展覽》必將對中日友好和中日藝術交流做出貢獻。祝展覽圓滿成功！」

3 中國美術家協會山東分會

「欣聚日中書畫展開幕，謹表祝賀並祝展覽圓滿成功。」

4 中國書法家協會浙江分會名譽主席沙孟海（中國書法家協會名譽理事·浙江美術學院教授·西泠印社社長）

中國書法家協會浙江分會副主席朱閔田（中國書法家協會理事·浙江美術學院助教授·西泠印社理事）

「謹柬已收到謝。因無暇前往特電祝展覽圓滿成功。沙孟海·朱閔田同賀。」

5 中國書法家協會浙江分會

「欣悉大作在皖展出，謹致以熱烈祝賀。愿先生展覽順利、旅途愉快。」

6 中國社會科學院歷史研究所研究員劉起鈞（並祝賀書法一件）

「花摘·河內·葛三位藝術佳品展覽必對藝術交流作出可貴貢獻至所祝頌。」

7 浙江美術學院教授劉江（中國書法家協會常務理事·西泠印社副社長）

「祝展覽圓滿成功。」

8 浙江美術學院教授章祖安（杭州大學古籍研究所兼任教授）

「祝日中書畫藝術展覽圓滿成功。特別對我的日本學生河內君平熱烈祝賀。」

9 江西師範學院助教授邱振中（中國書法家協會學術委員會委員）

「謹祝展覽成功。」

10 台灣書法家杜忠誥

「欣聞吾兄與友人聯合舉辦日中書畫藝術展覽，曷勝欣忭，謹祝展出成功。」

11 洛陽市旅游局張經武

「祝賀花摘幹夫·河內君平·葛新民藝術展覽開幕。」

12 日本成田山書道博物館開設準備室橋本匡朗

「對日中書畫藝術展覽，衷心祝賀盛況成功。」

13 日本東京國立博物館富田淳

「對日中書畫藝術展覽開幕，衷心祝賀成功。」

14 日本書法研究誌『新書鑑』編集部池田利広·美加子夫妻

「恭賀河內先生在安徽省博物館舉行中日書畫藝術展覽。在日本謹向您表示衷心的祝賀。敬祝展覽會圓滿成功。」

(五) 鮑加中國美術家協會安徽分會主席祝辭

「尊敬的貴賓·朋友們：

值此《日中書畫藝術展覽》在中國安徽省合肥市開幕之際，我代表安徽省書法家協會·安徽省美術家協會，謹致以熱烈祝賀，並熱烈歡迎以水沢利忠先生為顧問、中村宏先生為團長的隨展團全體日本友人和書法家河內利治先生。這次展覽得以展出，應感謝日本前橋聯合國教科文協會中村宏會長和日本中國文化交流協會·前橋國際交流協會·文教大學·仙教大學·調布學園女子短期大學等單位的支持。

中日兩國人民有着兩千多年的文化交流和友好往來的親密關係。在最堪珍視的中日兩國文化往來悠久歷史中，光輝地體現中日人民親密無間、水乳交融精神的、書畫藝術最為突出。這種淵源流長、延綿至今、相互交往和促進的藝壇友誼、在世界藝術史上是罕見的。此次《日中書畫藝術展覽》和不久將在日本舉辦的安徽省現代書畫藝術展覽，正是體現這種友誼的延續。

此次來華展出的日本著名畫家花摘幹夫先生的作品，是畫家以花卉作為主題的精美藝術品，這位七十三歲高齡的老

画家、以動人的藝術形態、豐富瑰麗的色彩、流暢的筆觸、獨創地表現出具有特色的藝術效果、顯示了老画家充沛的激情和对生活深沈的愛。遺憾地是花摘幹夫先生因健康原因、未能來華、我趁此機會祝願他健康、青春永駐。

日本著名書画家河内利治先生帶來了他精心創作的書法藝術品、這位对中国傳統書法藝術和中国古代文化頗有研究的日本書法家、書法精湛、功底深厚、他通曉真・草・隸・篆・行各書體、筆力遒勁、雄氣橫貫。看了他的作品不僅使我們能得到一次很高的藝術享受而且從中還感受到藝術家对中国人民的深厚感情、河内先生年青有為、前程似錦、我們予以殷切的期望和衷心的祝願。

參展的中国画家葛新民先生是我省赴日進行深造和創作的青年画家。一九八三年首次在日本舉辦画展、備受贊譽。一九八七年二度訪日後、潛心鑽研藝事并多次在日本舉辦以敦煌壁画和中国風情為素材的画展、宣揚中華民族優秀的藝術傳統。特別是他為京都市大雲院祇園閣及兵庫県尼崎市甘露寺繪制的共長達一八〇平方米、以敦煌為題材的壁画、在日本頗具影響、這次回国展出表現我国敦煌、西藏和印度、尼泊尔等国風情的作品、顯示他在日本艱辛的藝術探索歷程和藝術上的成熟。我們為他的成果感到由衷的高興。

三位中日藝術家聯袂展出藝術精品是中日藝術交流的一件盛事、必将对中日友好和中日藝術交流作出貢獻。

謹祝展覽會圓滿成功！ 祝来自東隣的日本貴賓在中国過得愉快！ 謝謝大家！

(六) 中村宏訪中代表团團長返礼挨拶

「この度《花摘幹夫・河内君平・葛新民——日中書画藝術展覽》を、安徽省博物館において開催させていただく運びとなりましたことは、前橋ユネスコ協会にとって一大慶事で在ります。申すまでもなく、中国美術家協会安徽分会・中国書法家協会安徽分会をはじめ、安徽省人民对外友好協会・安徽省文学藝術界聯合界・安徽省政協書画社の関係各位には一方ならぬご尽力を賜りましたことに衷心より御礼申し上げます。特に、中国安徽美術家協会主席鮑加先生には多大なるご厚情を賜り、厚く感謝の意を表したく思います。

現代日本と中国の書画家の藝術作品を通して、日本と中国両国の相互間の理解を計り、文化交流に寄与するため、今回の三氏による展覽会が企画されました。花摘幹夫先生は紫陽花をモチーフにした油絵三十点を、河内君平

先生は篆書を中心にした書法四十点を、葛新民先生は仏教画を主に様々な中国画三十点を出品され、正しく百花斉放と申せましょう。このような企画は、日中双方にとって誠に慶賀に堪えないことと存じます。

本展覽を参観するため、十名ばかりではありませんが、文教大学教授水沢利忠先生を顧問に訪中団を組織しました。みな、歴史的古城廬州、安徽省合肥市への訪問を心から待ち望んでおりましたが、今日ここに、その願が叶いましたことは、生涯忘れられぬ思い出となりました。

この《日中書画芸術展覽》を通じて、民間レベルでの真の日中友好が深まり、芸術交流が今後一層発展していきますことを、切に望んでおります。謝謝！」

(七) 柳友倫巢湖市人民政府副市長祝辞

「值此《花摘幹夫・河内君平・葛新民——日中書画芸術展覽》開幕之際、我謹代表葛新民先生的家郷、巢湖市人民政府表示熱烈祝賀、並向來合肥舉辦這次書画展的日本書画家花摘幹夫・河内君平及中国訪問的中村宏団長等諸位先生和女士表示誠摯的敬意。葛新民先生是巢湖市烔煬鎮人、他酷愛書画芸術、並取得很深造詣。他多次在日本舉辦個人画展、得到中村宏會長和花摘幹夫・河内君平等日本友人的鼎力相助、作為葛新民先生的家郷人、我們為葛先生所取得的成績而高興、並對日本友人給予葛先生的關心和支持表示感謝。最後、熱忱歡迎日本書画家訪問団全體成員到巢湖市觀光、對巢湖市的經濟和文化事業的發展給予關心和支持。祝愿中日文化芸術交流繼續不斷下去、祝書画芸術展覽獲得圓滿成功。謝謝大家。」

(八) 花摘・河内の両氏の書画作品の贈呈式と証書授与

ア “中国美術家協会安徽分会”へ、花摘先生の「紫陽花」油絵一点および河内の「樹成陰而集鳳、水至清則無魚」篆書対聯を寄贈し証書を賜る。

イ “中国書法家協会安徽分会”へ、花摘先生の「紫陽花」油絵一点および河内の「長江垂地若篆字、晴岫挿天如断屏」篆書横披一幅を寄贈し証書を賜る。

ウ “安徽省博物館”へ、花摘先生の「紫陽花」油絵一点および河内「寶笈生香」篆書立軸一幅を寄贈し収蔵証明

書 (NO.0019) と記念品を賜る。

(エ) なお、これに先立つ九月六日に、安徽省人民政府を表敬訪問し、花摘先生の「紫陽花」油絵一点および河内の「求大同存小異」篆書立軸一幅を寄贈し証書を賜る。

(九) テープカット―鮑加・劉天明・水沢利忠・中村宏

(十) 作品参観―来賓を先頭に、展示作品を一点一点順番に鑑賞して回り、作家がそれぞれの作品解説をする。

四 《日中書画芸術展覧》 開催祝賀書法作品と書簡

開幕式に先立ち、展覧会開催のはなむけに、中国美術家協会経由で何人かの方からお祝いの書法作品ならびに書簡を頂戴した。これもまた友好の証と思われる。

中国社会科学歴史研究所研究員劉起鈺教授より頂戴した展覧会開催祝賀書法作品は、「俚句」(俗語)を交えて作るとご本人は為書きされているが、実に格調高い七言古詩と言える(括弧内はその句のテーマ)。

- | | | |
|-----------|------------------|------------|
| 1 忽驚海外伝三絶 | 忽ち驚く海外より三絶を伝うるを | (劉起鈺教授の心情) |
| 2 琳瑯璀璨群相悦 | 琳瑯璀璨として 群相悦ぶ | (日中双方の心情) |
| 3 花翁河内神腕奇 | 花翁と河内 神腕奇にして | (花摘と河内の技量) |
| 4 葛氏揮毫并高潔 | 葛氏の揮毫 並びに高潔なり | (葛新民画の品格) |
| 5 入眼天孫雲錦妍 | 眼に入る天孫 雲錦妍やかに | (花摘油絵の画風) |
| 6 紫陽花発玉生煙 | 紫陽花発き 玉 煙りを生ず | (花摘油絵の画風) |
| 7 錯金倒薤舒古籀 | 錯金と倒薤と古籀を舒べ | (河内書法の書風) |
| 8 快劍刳斫蛟鼉淵 | 快劍刳斫す 蛟鼉の淵 | (河内書法の筆勢) |
| 9 西流沙撫優墨影 | 西のかた流沙に撫す 優れし墨影を | (葛新民画の題材) |

10 維摩寺壁翻相伝

維摩寺の壁にひるがえり翻て相伝う

(葛新民画の日本伝来)

11 朝来淮上秋風爽

朝来の淮上 秋風爽やかに

(合肥の秋)

12 巢湖菡萏宜雙漿

巢湖の菡萏かんたん 雙漿に宜し

(巢湖の蓮)

13 記取煙波容與情

記取す煙波 容かたちと情こころとを

(友好の情)

14 好将粉本留天壤

好く粉本を将て天壤に留めん

(書画の情)

謹成俚句敬祝

謹しんで俚句を成し敬い祝う

花摘幹夫

河内君平

日中書画芸術展覽盛会

劉起鈺書賀

一九九一年九月寄于北京

葛氏新民

(詩意) 突然贈られてきた三人展のパンフレットを手にして驚いたが、その書画の輝くばかりの美しさは、日中双方にとって喜ばれるものと信じる。花摘老画伯と河内氏の技量は神業のように奇偉であり、葛新民さんの筆墨もまた清らかな趣きを漂わせている。眼に飛び込んで来た、国土平定のために高天原から天降されたという天津彦火瓊杵尊のごとき花摘老画伯の油絵は、仙人などが着飾る綾錦の着物のように艶やかで、紫陽花の花が開き、あたかもその画面からは玉のように美しい匂いが立ち込めるかのようなのである。河内氏の書法は、青銅器の銘文に金を施したような文字や殷の務光が作ったと言う倒薤篆のような文字で、古文や籀文の意を広げ伝え、鋭い剣で深瀬に潜む生きた蛟(みずち)や鼉(大蜥蜴)を思い切つて切り裂くような力強い筆勢がある。葛新民さんの中国画は、西方の砂漠にある敦煌壁画の最高の遺産を汲み取り、それを日本の京都や尼崎のお寺の壁に置き換えて描いたものだ。安徽省の北側を流れる淮河のほとりに、秋風が爽やかにそよ吹き、菡萏の華が美しく咲く巢湖を渡るには、日本と中国という二つの槳がふさわしい。煙る波間に、通じ合う日中友好の情を心に刻み、その証しとしての書画作品をこの世にしっかりと留め伝えて下さい。

この詩には少し解説が必要であろう。筆者は、劉起鈺先生の元へ展覽会のパンフレットを訪中以前にお贈りした。パンフレットには三名のカラー版の書画作品と略歴が印刷されており、先生はそれを見ただけで、たちどころにこ

の詩を作り自筆で揮毫され中国美術家協会安徽分会宛に贈って下さったのである。1句目の「忽ち驚く海外より三絶を伝うるを」は、このパンフレットを受け取った時の劉先生のご感想であり、「三絶」とは言うまでもなく花摘・河内・葛の三氏を指している。5・6句目は花摘先生の紫陽花の油絵を、7・8句目は河内の篆書中心の書法を、9・10句目は葛新民先生の日中両国で描いた敦煌壁画をそれぞれ評している。なお8句目の「快剣刳斫蛟鼉淵」は韓愈『石鼓歌』の「快剣斫断生蛟鼉」を踏まえる。11句目は合肥の秋を、12句目は巢湖の蓮を謳う。そして末尾の13・14句目は友好の情が書画によって永久にこの世に刻まれることを詠じている。

また中国書法家協会副主席・天津大学教授王学仲先生より頂戴した八月廿八日付の手紙には、

「欣聞大作到我国安徽省会展出、実為中日芸術溝通の一大盛事、因事未能親去祝賀、我想您的大作、一定会博得中国觀衆的贊賞。」

とあり、さらに呉昌碩の孫で、上海海墨画社副社長・呉昌碩芸術研究会副会長の呉長艱先生とその子呉超先生より頂戴した九月七日付の手紙には、

「欣聞先生作品参加日中書画芸術展覽在安徽省博物館展出、謹表祝賀。先生在日致力於中日文化交流。這次又為推動中日芸術交流的進一步發展、親自來華參加作品展覽、將對中日友好和中日文化芸術交流作出貢獻。謹祝展覽會圓滿成功。」

とある。また岐阜女子大学に客員教授として来日中の浙江美術学院助教陳振濂氏からも中国書法家協会安徽分会宛に祝賀の書法作品が寄せられ、

「河内君平硯友將赴皖展出近作、此有助於中日書法交流之壯舉。僕雖遠在異國、亦為之撫掌稱善。君平囑僕題辭、僕何敢辭。唯兩國書画交流更上層樓。君平早歲留學浙江美院、近與中國書法界往還、亦多研究、著述甚富、將來前程未可限量。赴華書展、以芸會友、此正其時也。故奉函賀之。陳振濂時客日本。」

とある。このような温かいお褒めの言葉の数々は、誠に身に余る光栄であり感謝に堪えない。

五 《日中書画芸術展覽》に関する新聞報道

今回の展覽会については次の新聞に以下のような記事が掲載された。

① 一九九一年九月七日付『安徽日報』第三面：《日中書画芸術展覽》開催広告

② 一九九一年九月七日付『合肥晚報』第三面：河内の篆書「歩歩登高」（目録番号36）と葛新民先生の中国画「祈祷」

の写真掲載

③ 一九九一年九月十日付『安徽青年報』第一面：開幕式記事

見出し 「花摘幹夫・河内君平・葛新民——日中書画芸術展覽」在省博物館展出」

記事：「本報訊：由安徽省美術家協會・安徽省書法家協會主辦的《花摘幹夫・河内君平・葛新民——日中書画芸術

展覽》、于九月七日在省博物館開幕。省委有関領導、文化藝術名流、以及日本国文教大学中国文学科教授水

沢利忠為顧問、前橋聯合國教科文協會會長中村宏為團長的画展随团九人及日本書法家河内君平等参加了開幕

式。這次展覽会展出的有油画・書法・中国画一〇〇件。日本著名画家花摘幹夫先生創作的油画主要以花卉為

主題、以動人的芸術形象・瑰麗的色彩・流暢的筆触、顯示了画家充沛的激情和对生活的熱愛。河内君平是日

本著名書法家、他書藝精湛、功底深厚、他作品富有情趣和芸術魅力。葛新民原系我省巢湖国画院画家、他数

度訪日、在日本多次舉辦画展、備受贊譽、此次展出的作品是在他的旅日期间所作的一批新作、顯示其芸術更

趨成熟。三位中日芸術家的聯合展出、必将对中日友好交流作出貢獻。」（河内注：一部記載ミスを訂正したことを

お断りする。）

④ 一九九一年九月十三日付『安徽工人報』第四面：河内の行書「尚友」（目録番号38）と葛新民先生の中国画「敦煌印

象」と花摘幹夫先生の油絵「紫陽花」の写真掲載

見出し 「一衣帯水 丹青融情——賀日中書画芸術展 鮑加」

記事：（開幕式での中国美術家協会安徽分会主席鮑加先生の祝辞より抜粋）

⑤一九九一年九月十五日付「安徽日報」第三面：張潤霞副省長会見と展覽會開幕式参加記事

見出し「日中書画芸術在肥展出 張潤霞会見日本客人」

記事：「本報訊：由省美術家協会・省書法家協会主辦的花摘幹夫・河内君平・葛新民——日中書画芸術展覽九月七日在省博物館開幕。九月六日、張潤霞副省長会見了以日本前橋聯合國教科文協會會長中村宏為團長・日本國文教大學中國文學科教授水沢利忠為顧問的隨展團一行。參加開幕式的有省人大常務委員會副主任鄭銳、省政協副主席馬樂庭、省政府秘書長陳基余、省外辦副主任潘邦富、省文聯副主席魯彥周、省美協鮑加等及書畫界人士二百多人。這次展覽展出書畫作品九〇幅。日本畫家花摘幹夫的花卉作品色彩瑰麗、筆觸流暢。日本青年書法家河内君平的書法精湛、功底深厚。我省畫家葛新民曾在日本多次舉辦畫展、備受贊譽、此次展出的三〇幅作品是他旅日期間的新作。三位中日藝術家聯袂展出、必將對中日友好和中日藝術交流作出貢獻。」

⑥一九九一年九月二十五日付「書畫苑」第一面：河内の篆書作品「楚辭一節」（第8回読売書法展特選受賞作品）

見出し「一衣帶水翰墨伝情——中日書画芸術展覽」観後 何合民

記事：「『芸術は無国界の。』看過9月7日在省博物館展出的《中日書画芸術展覽》之後、更有同感。自大唐盛世、

鑒真東渡、中日文化交流已有兩千多年的歷史淵源。一衣帶水的隣邦、更在書画芸術上有諸多友好往來的史話。這次書画展中可見一斑。：纔過而立之年的日本著名青年書法家河内君平的書法佳作、使中國同道為之矚目。他曾在浙江美院書画篆刻班進修、受教於沙孟海先生門下、其治學精神嚴謹、通曉真・草・隸・篆・行、功力深厚、尤以篆書見長、作品厚重沈拙、筆力勁道、氣勢相貫。一幅行草「扶桑正是秋光好、楓葉如丹照嫩寒」錄魯迅先生詩句、更是切題、勢若游龍、中鋒用筆、很難想像是在隣邦書家之手、深得國內行家贊嘆。：面對日益開放的世界、中日書画芸術的交流將會有更廣闊的前景。這次展覽得到前橋聯合國教科文協會、日中文化交流協會及我省美協、書協、省對外友協、省文聯、省政協書画社的大力支持。省部分負責同志出席了展覽開幕式。」（河内注：展覽會全体的記事と河内個人に関する記事のみを抜粋したことをお断りしておく。）

⑦一九九一年十月二十三日付『書法報』第四十三期（総第三八〇）第二面

見出し「《中日書画芸術展》」

記事：「9月7日、安徽省書協・美協在省博物館拳辦此展、共展出日本書画家花摘幹夫・河内君平和中国書画家葛新民的90幅作品。」

六 《日中書画芸術展覧》開催の成果と友好について

第一章に記した通り、「現代日本と中国の書画家の芸術作品を通して、日本と中国の相互間の理解を計り、文化交流に寄与するため」というのが《日中書画芸術展覧》開催の目的であったが、この当初の目的は開幕式の盛大さや祝電・祝辞・書法作品・書簡などによって、訪中以前の期待をはるかに上回る、というよりもむしろ過度の賞賛によって、一応の成果を見たと思われる。しかし、この展覧会がかくも立派な成果を収められた背景には、次の数点の関係や働きかけがあったからであり、マイナス要因が全く考えられぬ程、それらがすべてプラス方向に影響しあったからと思われる。以下に、河内個人の主観的な感想を数点述べておきたい。

- ①葛新民先生一家総出の粉骨碎身の努力。
- ②鮑加先生を始め中国美術家協会安徽分会を軸とした用意周到の計画と実行。
- ③群馬県と安徽省の友好関係を基盤とした、安徽省人民政府の全面的な支援。
- ④中国書法家協会安徽分会との九年前の河内自身の交流経験。
- ⑤中国書法家協会名誉理事であられる沙孟海先生の弟子、河内への親愛の情。
- ⑥今井凌雪先生の中国における高い評価に基づくその弟子、河内への親愛の情。
- ⑦河内個人の中国古来の伝統技法と日本現代の表現主義をミックスさせた書法作品。
- ⑧訪中団一行の和氣藹々とした協力体制。

⑨書画という芸術を通じての交流。

⑩日本と中国両国の歴史的友好関係。

①と②は何をおいても感謝申し上げなければならぬ。葛新民先生とその夫人汪桂蘭女史ならびに鮑加先生を始めとする中国美術家協会安徽分会の方々の献身的な協力無くしては、展覧会は開催できなかったからである。あらためて心から感謝の意を述べたい。また③の安徽省人民政府の支援体制は、側面からの強力な援護であるが、国際交流を行う場合、中国政府の支持無くしては展覧会が現実化しないだけでなく、全くと言ってよいほどその効力が伴わないだけに本当に有難かった。④⑤⑥⑦は河内個人の自画自賛であるが、「書は人なり」という芸術観が中国人の根底となっており、以上、その師弟関係や伝統書法に対する実力が何よりも最優先する。⑧は蛇足気味にすぎず、⑨⑩も直接的な要因とならないかもしれないが、全体としては欠くことができないように感じる。

今回の展覧会からは、多くのことを学び取ってきた積りであるが、最大の収穫は友好の難しさを思い知ったことである。過去の交流遺産を今日の一時の人間関係から生じる感情のもつれなどで、決してこわしてはならないことは言うまでもなからう。友好は、一人の力で成し遂げられるものではないが、一人一人の協力、支援、好意がなければ成り立たないことも事実である。要は、一人一人が友好に情熱を燃やし、子々孫々、世々代々受け継いでいくことである。そのためには、人の力になることを献身的かつ積極的に勇気を持って行動することが何よりも大切である。今回の展覧会が一過性のものでなく、将来さらに継続して開催するためにも熱意を持ち続けるよう努力していきたい。

最後に、今回の《日中書画芸術展覧》の開催は、河内自身の研究成果の発表であるとして、調布学園女子短期大学より後援を賜っただけでなく、国際学会出張扱いという格別のご配慮を賜りました事に、厚く感謝の意を申し上げます。

(付記) 本稿は、去る十一月十六日に本学の四三五番教室において、春名徹・外池昇両先生をはじめ諸先生方のご協力により、「書画・芸術を語る―現代中国最新事情」と題して《日中書画芸術展覧》開催の帰朝報告を行っ

た折の発表レジュメを整理し加筆したものである。

(付記二) 《日中書画芸術展覧》開催のために訪中したが、また合肥では中国書法家協会安徽分会との「書法学术交流座談会」も挙行した。この点については、書法研究誌『新書鑑』（今井凌雪主幹）第一九六号に別記したので参照されたい。

(付記三) 《日中書画芸術展覧》開催の返礼として、前橋ユネスコ協会主催の《中華人民共和国安徽省出身の書画家による絵画・書法作品百点展覧―現代中国書画家作品展》が左記の要項で開催されたことを報告しておく。

〔前橋展〕 日時：一九九一年十月十六日（水）～二十一日（月）

会場：前橋市民会館

〔東京展〕 日時：一九九一年十二月十六日（月）～二十二日（日）

会場：日中友好会館美術館

主催：日本―前橋ユネスコ協会

中国―中国美術家協会安徽分会・中国書法家協会安徽分会

後援：日本―日本中国文化交流協会

群馬県教育委員会・前橋市教育委員会

前橋国際交流協会・上毛新聞

社団法人日中協会・財団法人日中友好会館

文教大学。仏教大学・調布学園女子短期大学

中国―駐日中国大使館・安徽省人民对外友好協会

安徽省文学芸術界聯合界・安徽省政協書画社